

## 令和5年度第1回兵庫県建設業育成魅力アップ協議会 議事録

日時：令和5年7月14日（金） 14：00～16：00

場所：神戸市教育会館 501号室

### 【議事(1) 令和4年度 事業実施報告について】

- ・事務局より、令和4年度事業実施報告についての説明があり、その内容について承認がされた。

### 【議事(2) 令和5年度事業状況報告について】

- ・事務局より、令和5年度 事業取組状況についての報告があった。

### 【議事(3) 各団体からの資料説明】

- ・兵庫県建設業協会では、「兵庫県建設産業人材確保推進連絡協議会」を設けており、年1回毎年12月に会議を行っている。年1回では十分な活動ができないため、協議会構成員メンバーの中から、学校関係者あるいは建設業協会の会員から合計10名程度で作業部会を設けて活動を行っている。
- ・その中で令和5年度の取り組みとして、5つの取り組みを計画している。テーマとしては「建設業の魅力伝える情報発信のさらなる強化」ということで、「Ⅰ 高校生向け事業『地元がイチバン！地元建設業魅力出前館（説明会）in 工業高校』の開催」があり、これは合同企業説明会のように会員企業数社が校内に出展ブースを設置して説明するもので、地元で活躍する会員企業を知ってもらうとともに、建設業への理解を一層深めてもらうことにより、県内建設企業への就職を促進することを目的に開催する。協議会構成員のうち建設系学科のあるすべての高校が地元会員企業と連携し開催する。県立龍野北高校では6月23日（金）に既に実施済みである。他の建設系学科のある工業高校とも現在調整中である。
- ・「Ⅱ 高校生の保護者向け事業『保護者向け建設現場見学（説明）会』の開催」があり、日常見ることができない建設工事現場や工事で使われている最新技術の見学を通じ、建設産業の魅力や社会的意義についての理解を深め、生徒の進路選択の際の保護者の理解促進に役立てていただくために開催する。協議会構成員のうち建設系学科のあるすべての高校が地元会員企業と連携し開催する。現在、建設系学科のある工業高校と調整中である。

- ・「Ⅲ 小・中学生及びその保護者向け事業『小・中学生及び保護者の建設現場見学（体験）ツアー』の開催」があり、国・県等と連携し、小・中学生及びその保護者を対象とした公共事業現場見学会を開催する。人々の安全を確保し、生活の利便性を高める公共工事の意義を知ってもらうとともに、そうした意義のある公共工事において大きな役割を担う建設産業の魅力と仕事のやりがい伝えるために開催する。建設系学科のある工業高校の地元行政（県西宮土木、県加古川土木、県豊岡土木、神戸市建設局等）と現在調整中である。
- ・「Ⅳ 新しい媒体への対応『WEB動画制作検討部会（仮称）』の設置」があり、インターネットや企業説明会等で使用するため、会員企業の求人職種として最も多い「施工管理」を分かりやすく説明する動画を土木バージョンと建築バージョンの2本製作することとし、来年度は「WEB動画制作検討部会（仮称）」を設置し、その企画内容を議論する。
- ・魅力発信、魅力アップの内容として「Ⅴ 会員企業の継続的な努力『会員企業における働き方改革のさらなる推進』（昨年度と同じ）」があり、いくら情報発信しても建設産業自体に魅力がなければ若者が入職先として建設産業を選択しない、またそこに留まらない。このため、すべての会員企業が労働環境の改善等に向けた働き方改革を不断の努力をもって推進し、建設産業の魅力の底上げを行っていく。こういった事業を令和5年度は実施していく。
- ・昨年度の事業の報告と、既に7月ということもあり事業も動いていることから、今年度の事業の計画と両方合わせた形で資料を作成。
- ・人材協（建設産業人材確保・育成推進協議会）については、平成5年に国土交通省が旗振り役となり、建設産業の業界団体に数多く参画いただいた（約150団体）。建設産業の将来を担う若者の入職促進・育成を推進していこうということで構成した会議体である。事務局として（一財）建設業振興基金が事務・運営をさせていただいている。
- ・人材協による戦略的広報展開といっても、今もう各県で実施されているとおり、特に若い方に対する情報発信というものを、またこの取り組みを始めてから、当初は紙媒体がメインだったものが動画になり、それからSNS、Twitterになり、インスタ（Instagram）になり、ということで色々取り組んでいただいております。昨今では団体がやっているだけではなく、企業も数多く動画をアップしているというところで、その他にも県の県土整備部が非常におもしろい動画を上げていただいている。こちらは「建設現場へGO!」というサイトでどんどん紹介させていただいている。兵庫県建設業協会も、新しく前回の若い方のワーク・ライフ・バランスに続いて動画を作成予定だと聞いているため、また出来上がったなら是非発表させていただきたい。
- ・「ニッポンをつくる人たちまもる人たち」の作成・配布について、これは主に令和5年8月2日（水）・3日（木）に「こども霞ヶ関見学デー」というものがあり、こちらでは重機を動かすまではいかないが、重機に乗ってもらったり、それから造園で文鎮を作ってもらったり、あとは大工さんの仕事とまではいかないが、大工さんのノコギリやヤスリ等を使ってコースターを作ってもらったりという体験イベントをしている。そこで子供用ということで、見開き・裏表で「ニッポンをつくる人たちまもる人たち」ということで、それぞれ土木・建築の仕事を紹介させていた

だいている。

- ・「建設産業ガイドブック」の配布について、こちらは工業高校生向けということでもう少し本格的な内容であり、建設業のインフラ整備、災害対応の役割、建物ができるまで、そこに入っている様々な働き方の職種についてご紹介をさせていただいている。こちらは毎年度春先に主に2年生ということで18,000部、無料で工業高校へ配布させていただいている。
- ・「作文コンクール」の実施について、特に高校生の作文コンクールの応募数をご覧いただきたいが、これまで約800・900弱ぐらい応募があったものが、令和2年度・令和3年度に急激にコンクールの応募数が増えた。実は昨年度（令和4年度）はがくっと落ちたため、学校の先生に何件かお伺いしたところ、ちょうどコロナ禍ということもあり、自宅学習の際に非常にこのコンクールが良かったという意見と、学校が再開すると先生ご自身もお忙しいということもあり少し減ってしまったという意見があった。今年度は4月下旬に「作文コンクール」のご案内を送らせていただき、ゴールデンウィーク明けに案内が到着、それから締切が令和5年6月30日（金）ということで、6月に入って2回に渡って手分けして工業高校へ建設業振興基金からお電話して、ぜひお申し込みお願いします等の働きかけを行った。今年度は900台に盛り返してきた。
- ・「こども霞ヶ関見学デー」については、ここに掲載しているものが去年の事業報告であり、資料右隅に今年度の同様の取り組みについての開催日を記載している。去年は、残念ながら2日目が荒天ということで中止になってしまった。それから中での釘打ち体験とか鉄筋の結束体験といったものができなかったが、今年度はコロナも冒頭にあった通り5類になったということで、今年度は中での体験ものも実施をする予定で準備をしている。それから子供達ということもあり、建機メーカーからミニカーを提供してもらい、そういった景品なんかも配るようにしている。
- ・「国土交通省学校キャラバンの開催」については、今各地で学校での出前授業を盛んにやっただいているかと思うが、こちらは国土交通省の地方整備局の持ち回りということで、学校キャラバン、出前授業を実施している。昨年度は中国地方整備局で宮島工業高校にて開催した。今年度は北陸地方整備局で新発田南高校にて開催させていただく。ちなみに新発田南高校では、無人重機の体験と地盤の地質調査、あと左官体験を実施する予定である。
- ・「人材協定期便の発送」については、先程の「作文コンクール」はじめ、様々な建設業振興基金からの情報提供を、チラシ類が多いということもあり、置いていただいて自由に手に取っていただきたいということもあり、あえて紙媒体を全国の工業高校他へ年3回お送りしている。
- ・「戦略的広報の展開 ～WEB や SNS による広報展開」については、今申し上げた動画や色んなイベントの開催告知を全国から集めて、「建設現場へGO!」というサイトで情報発信をさせていただいている他、「18歳のハローワーク」というサイトでは、先程ご説明した「建設産業ガイドブック」と同じように建設業にある様々な職種、いわゆる土木・建築からはじまり、色んな業種かつ若手・中堅・ベテランの方々のインタビューを掲載して、建設業に入っていくとこういう風に成長していく、キャリアパスがあるということをPRしている。それから「人材協 Twitter」は主に「建設現場へGO!」に上げた情報をTwitter等でも呟いている。その他に国土交通省か

らの委託事業ということで、建設産業女性定着支援ネットワークの事務局も毎年度建設業振興基金で受託している。今年度の取り組みとしては、女性定着と絡めて柔軟な働き方をしている企業の事例集の作成と、小・中学生向けの魅力発信イベントに関してのイベント費用支援の2本柱で、今年度は実施する予定である。

- ・「建設人材育成優良企業表彰」の実施について、若年者向けの情報発信というよりも、建設業の処遇改善を含めた担い手確保・育成の気運醸成ということで、各企業から応募していただき大臣表彰をするという取り組みである。今年度が2回目で、募集期間が第1次・第2次とあるが、これは単純に第1次で昨年度の206社に比べて64社だったため、追加の募集を約1ヶ月間かけて行い、今年度は74社の応募があった。
- ・「令和5年度 人材育成に関する新規の取組」については、右下の新規事業と記載された部分が今年度の新しい取り組みで、建設キャリアアップシステム技能者の処遇改善の取り組みというところでは、4段階の各職種毎レベル1・2・3・4、白カードからゴールドカードといった基準を策定していただいている。主だった職種はほぼほぼ網羅されてきているが、まだまだ未策定分野があり、そういったところに基準策定を行う際の費用、委員会を開いたり、専門家をお呼びしたりした際の謝金といった費用に使っていただくということで支援をする。あと既に能力評価が出来上がっている職種の団体については、各会員企業に所属していただいている技能者の皆さんに、レベル2・3・4というカードのレベルアップの申請をしていただくPRをして下さいということで、こちらも広報活動に使っていただくお金を支援させていただいている。  
それからもう1つは、技能者のスキルアップ研修等に関する支援ということで、教育訓練機関、今日、三田建設技能研修センターもお見えになっておられるが、そういった建設関係の訓練校、特にコロナ禍でなかなか経営も厳しい状況が続いたということもあるため、今年度については事業の展開も含めて幅広く支援をしたいということで、訓練校に対する支援のための資金も用意させていただいている。
- ・「建設産業女性定着促進事業」については、先程若干ご説明したが、建設業の団体において色々な建設業で働く技術者、技能者以外も含めて、女性ネットワークの会というものが設立されてきている。そういったところの取り纏めをして、意見交換をしていたり、提言を出したりということで事務局をさせていただいている。特に全国建設業協会においては、空白県を無くそうということで、本部の方も事業計画に書いていただいて、各1県ずつ取り組みを進めようということでやっていただいている。顔ぶれは本当に様々で、主には建設業協会の女性部会が多いが、それ以外にも県や市がそういった取り組みをされているところもあり、例えば静岡県は静岡市の発注部局が参加していただいたり、福岡県矢部川女性技術者の会というところがあるが、こちらは矢部川工事事務所、国交省の地方整備局の事務所でこういった会を設けていただいたりということで、資料の右の方に運営主体と記載されているが、自治体といったところも参加いただいているという状況である。
- ・「登録基幹技能者制度推進協議会」については、主に技能者の資格というと、技能者をはじめ厚労省の所管の資格がメインであるが、国交省の方でも認定する資格として登録基幹技能者制度というのを設けており、先程申し上げたCCUSキャリアアップのレベル4においては必ず登録基幹

技能者を要件として定めるということになっている。先程のレベル1・2・3・4という基準策定を作る団体は、併せて登録基幹技能者のこういった講習、資格の運用も準備していただく仕組みになっている。

- ・「令和5年度 第1回 兵庫県建設業育成魅力アップ協議会 参考資料」について、前年度最終の魅力アップ協議会でも報告させていただいたが、P.8は令和5年度の事業推進基本方針の抜粋版である。「ものづくり（建設業）は人づくり」と題して、1～11項目設けている。
- ・その中で、「2 建設産業への入職促進並びに離職防止・定着促進への取り組み」は建設業に入る前から入職後定期的に講習を実施することで、「入職10年後にはこんな技能・技術や資格が取れるんだ」というようなキャリアパスを示すことができれば、「建設会社に入ろう」と思っている、ご父兄方の「いやいやちょっと」といった不安の解消や、学校の先生方にも安心して建設業への入職をお薦めいただけるような環境を私どもは作ろうと思っている。
- ・具体には、「(1) 建設労働者育成支援事業の講習受託」は（一財）建設業振興基金からの受託ということで、（一社）兵庫県建設業協会が拠点となってやっているもの。「(2) 社会人基礎研修の実施」は、西日本建設業保証（株）の業務エリアの各県の建設業協会会員からの新規入職者の方々を三田建設技能研修センターで研修するもので、「(3) 建設業入職者長期研修の実施」、「(4) 若手技術者実務研修、リカレント（学び直し）研修の実施」等と段階を追った研修を行っている。
- ・「7 建設産業担い手確保に係る各種会議への参画と支援」とは、今回の兵庫県建設業育成魅力アップ協議会や厚生労働省・兵庫労働局の会議等への参画のことである。
- ・後程説明するが、高校生の体験セミナーということで「8 就業体験継続実施と出前講座実施支援」を行う。それから「9 建設分野におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）の導入への対応」、「10 長時間労働削減への支援検討」には、業界を挙げて取り組んでおられる働き方改革に資する建設分野におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）の導入に対する研修会、それと先程建設業協会会長からも話があった2024年問題、長時間労働削減への支援ということで、現場の事務の約6割が事務仕事というような調査もあることから、本店・支店の方でそういった事務仕事をバックアップすれば、現場での長時間労働が抑制できるのではないかなというようなことから、「建設ディレクター」に関心が集まっている。当センターでは、建設ディレクター協会と打合せを行い、令和5年9月4日（月）から建設ディレクターの育成講習を開催することを決定した。令和5年7月13日（木）からホームページにて受付を開始している。
- ・その他に「11 施設の老朽化対策と担い手確保推進に寄与する施設整備の検討」については、建設産業への女性進出のための施設改修にも取り組んでいこうとしている。
- ・昨年度実施した事業について、1つ目が高校生の体験学習。昨年は6月6日（月）に実施したため、昨年度の兵庫県建設業育成魅力アップ協議会の会場でも当日の動画を見ていただいた。今年については資料2「令和5年度 事業取組状況報告（予定）」にも記載されているが、令和5年11月24日（金）と12月1日（金）に、神戸市立科学技術高等学校の生徒約80名が体験するこ

とになっている。

- ・2つ目「建設労働者育成支援事業」については、先程事務局から令和4年度の報告があった「設備コース」と「建設業入職コース」で、実績としては「設備コース」が5名受講して4名が就職に繋がっており、「建設業入職コース」が9名受講して6名が就職に繋がっている。
- ・3つ目「社会人基礎研修」、2の研修目的をご覧いただき、社会人としての基本（心構え、ビジネスマナー等）を習得することと、同年代の方が集まって連帯感を作り、入社時の不安解消とか入社後の定着促進に向けた研修である。①～⑩まで西日本各地の建設業協会を通じた新人社員が三田で研修を受けられた。赤字で記載している⑨令和5年6月6日（火）～8日（木）が兵庫県内の企業で31名の方が研修に参加された。
- ・4つ目「建設業入職者長期研修（建築コース・土木コース）」、目的のところをご覧いただき、入職者を対象に、実務に結びつくように建築コースと土木コースの2コースに分けて、建設系の高校卒業レベルの基礎的な内容を講習した。共通の安全管理・足場特別教育等と、建築コース、土木コースに分けた研修内容となっている。ここで1枚、最後に追加でカラー印刷でお配りした両面A4資料をご覧いただきたい。令和5年7月12日（水）に長期研修の内の「建設業における現場で役立つコミュニケーション能力UP研修」を実施し、その時に、今年入社してから3ヶ月が経過した新人社員が「入社してみて、建設業に入ってみて、今感じていること」を整理した内容となっている。やりがい、モチベーション、能力、スキルアップ、世間（外）から見たいところ、人として成長できる、魅力、知識等々から、新人社員が非常に前向きな捉え方をされているのが、これで読み取れるかと思う。付箋で貼っているため字が読みづらいところを吹き出し付でタイプ打ちしている。のちほどご覧いただきたい。
- ・5つ目「若手技術者実務研修（建築技術コース・土木技術コース）」、これは入社3年目までの方を対象としたもので、建築コース、土木コースに分けて実施した。研修の間には、建築で兵庫県の営繕課が施工している阪神北地域新設特別支援学校の現場見学、土木では二級河川、東川水系津門川地下貯留管整備事業を西宮土木事務所のご協力のもとに現場見学会を実施した。
- ・6つ目「リカレント研修 ～学び直し～」、これが入社3年目以上の方を対象に、既存のスキルを高めて新しいスキルを身につける学び直しの研修である。コミュニケーションスキルの強化、ドローン、測量の新技术、3次元データとBIM/CIMの活用等々の研修を行っている。
- ・7つ目「年度別訓練実績状況」として令和4年度の実績を掲載しており、真ん中辺りの専門研修の上から建設業入職者長期研修等々、それぞれ各年度の実績をご覧いただけるかと思う。
- ・別冊資料「受講生募集案内2023」のP.3真ん中辺りから、三田建設技能研修センターで建設業のスキルアップをどのようなことをしているかを技能者向け、技術者向け、それぞれの就職直後段階と定着段階でやっているものをご覧いただけるかと思う。あとでご覧いただきたい。
- ・別冊資料「建設業ウェルカム」、これは厚生労働省の建設労働者育成支援事業、去年の「設備コ

ース」と「はじめての建設業就職コース」の今年度版の夏・秋開催分のフリーペーパーで、（一財）建設業振興基金が発行されているものである。P. 25 に三田建設技能研修センターが取材を受けた内容が掲載されており、現在秋開催に向けた生徒集めのためにハローワークなどで配架されている。P. 23・24 には、昨年受講された方が入社された会社のインタビュー記事も掲載されているため、またお時間あればご覧いただきたい。

- ・（一財）建設業振興基金の冊子のP. 27 女性定着支援ネットワークについて、登録団体数の推移が令和4年度は47、令和5年度は46 となっており、46 もよく見ると新規が1 あるとなると2 抜けた計算になるが、これはお分かりになれば、何か特別な理由等があれば教えていただきたい。
- ・女性ネットワークの会の中には、ご説明したとおり、建設業協会等が女性部会ということで組織の中でしっかりと位置づけられて運営されているところもあれば、創設者の熱い想いで始まったようなところもあり、そういったところというのはどうしてもコロナの影響もあり、ここ数年活動を行っておらずといったところでご連絡があり、残念ながらもう連絡いただいても実際活動していないため、ちょっと連絡はもういいです、といった団体があった。
- ・女性定着支援ネットワークの関係で、P. 14 の時に柔軟な働き方という表現をされたと思う。これは2 通りあるかと思っており、女性に対する柔軟な働き方、それからそれに向けての男性とか世の中に向けての働き方の取り組みという風にも聞こえたが、柔軟な働き方、例えば一例みたいなものを教えていただきたい。
- ・柔軟な働き方に関して、これからまた各団体にアンケート調査を実施するが、軸となっているのはまず時間である。いわゆる朝8時とか5時までという決められた時間以外で、建設業の場合は実はなかなか時間休だとかそういったことは難しいため、変形労働時間制なんかも含めて対応しているような企業の取り組み、あともう1点は場所ということで、これは建設現場以外でバックオフィスの方が中心になるかと思うが、建設現場の方に関しても、今わざわざ、かつては例えば社内の稟議を取るのに一旦会社に戻って稟議を取らなければいけないというのが、今はその稟議書なんかもITでワークフローを活用して、いちいち会社に戻らなくてもいいようになったとか、その他はいわゆる建設業を始め、他の業界にも言えると思うが、柔軟に働くにはそもそもその仕事はその人じゃないと出来ないという状況を作らないことがまず何よりも重要であると思っいるため、そういったマニュアル化だとか分業化だとかでいうと、少しこれまでに言葉が出てきているが、建設ディレクターとかそういう技術者が今まで書類作成を担っていたところをバックオフィスでカバーして分業にしているとか、そういったようなところも含めて3パターンを、プラスアンケート調査では我々が想定している以外の良い取り組みもあると思うため、その他という形でこれから調査をして、良い事例があれば取材に行ってお冊子にまとめたいと考えている。
- ・6月23日（金）に新しい取り組みと言うことで、工業高校の方でいわゆる色々な企業が参加して出前館を実施されて、確か兵庫県建設業協会は大学生向けには毎年合同企業説明会のようなものをやってらっしゃったかと思うが、この大学生向けと高校生向けで何かこう難しかったこととか聞いていらっしゃることはあるか。
- ・資料記載の一番上の「I 高校生向け事業『地元がイチバン！地元建設業魅力出前館（説明会）

in 工業高校』の開催」については、初めての事業であるため、取り組みの状況はまだよく分かっていない。ただ、高校生の進学希望者の方が就職も考えてみようかな、という動きはあったと聞いている。大学生の方は詳細の資料にもあるが、「まちづくり業界研究大作戦」というのをまたもうすぐ実施するが、これはある場所に集まってもらうものである。高校生向けのものは、高校に出向いていくという違いがある。

- ・せっかく協議会に呼んでいただいているため、私としては他県で何か良い取り組みがあれば、また情報提供させていただきたいし、この兵庫県の取り組みはすごく良いと思うため、だから他の県でも大変だろうが出来るのではないかと考えている。また、引き続き建設業協会と連絡を取らせていただき、聞かせてもらえればと思う。
- ・大学生はイベントと本番と2回実施した。高校生は今年初めてなので、また協会と事務局に聞いていただければ事情はよく分かると思う。
- ・私どもが採用するのは、会社によって色々違いはあると思うが、施工管理である。施工管理で採用しても、本人はちょっと思い違いで職人になりたいとか、そういったことを途中から言う場合があり、入社の際に説明してもなかなかイメージとして沸かないということがあるかもしれない。そこはやはり入る前に実際に見て、「君はこっちだよ」とかいうように説明するのが必要かなと感じている。
- ・まず本当に感想になるが、この資料を見させていただき、ご説明の中で工業高校生のために本当に色々な取り組みや企画、それから出前講座とかをしていただいているということで、改めて感謝申し上げたい。
- ・私の感想の中の一つに、これから2024年問題があるという話で、その中で工業高校で2024年問題を生徒達にどういう風に、世の中がどうなって、どんな風に、例えば業界が手立てをしていただいて、それを解決、生徒を送り込んだりとか色々人材の確保のために生徒にどう指導していったら良いのか、どう呼びかけていったら良いのか、どういう職種、今施工管理と言われていたが、生徒の中には確かに職人というか、ああいうことに憧れを持ったりしている生徒もいるし、それから女性の生徒も段々、兵庫工業高校の場合であれば、建築、それから都市環境工学ということで若干増えてきている。そういったところで、女生徒達の働くイメージというか、どういふところに就くのか、施工管理、それから本当に職人というか、具体的にはもっとそういうもの作りに携わるといふところに、どんな風に学校の方で指導していくべきなのか、世の中がどういふ風になっていくのかといふところを、また教えていただきたい。どんな手立てをしていけば良いのかといふところを、お話の中で色々感じたところである。
- ・工業高校も出来るだけ、本当に担い手不足ということは色々な業界の方からも言われており、ただ求人数も今年度今の段階で、令和5年7月3日(月)から求人を受け付けさせていただいているが、昨年度の2割増し、非常に多い求人状況である。建設業界の方にどれだけ行くのか、建設系の生徒達が行くのか、これからいよいよ個別で保護者との面談等もあるが、どこまで行くのかといふのはちょっとまだ予想はついていないが、そういったところでこれから工業高校として、



我々どんな風に生徒達に指導していくというか、そういう色々な問題・課題がある中で、どういう風にしていったら良いのかということをもた教えていただけたらとか、こんな風に2024年問題に建設業協会に対応していきますよとか、色んなところで何かあったら情報いただけたら、という想いがある。

- ・まず今のお話の続きになるが、いわゆる技術者と技能者、ここで分けられると思う。技術者はエンジニアといわれる。どちらも不足していることは間違いがないことで、技能者、いわゆる職人も当然不足しており、すごく悩ましいところではある。学校の先生とお話する機会も結構あるが、学校の先生達が生徒をどういう形で社会に送り出しているのかと思う中での教育、これは多分、技術者や技能者、そういった区別はされずに基本的な建設業の教育をされている。そこは、あとは社会に出てからの自身のスキルで、自分はどこを目的とするのか、どういう社会での担い手になろうとしているのかということところだが、私どもも電気工事業だが、会社に入ってからそこでふと本人が何か違うなど、やはり目指しているところが、学校で学ばれている間にどうもその偏った、技術者というのが見えない、世の中の建設業の仕組みとか、そういったものが分からないまま、技能を教わるだけに留まった社会を思い描いているように思う。できれば、学校の勉強の中ではもちろん同じようなことだが、社会とはどういうものか、社会でこの建設業というのはどういうものなのかということも、学びの中に入れていただければと思う。「あっ、そういうエンジニアという領域の仕事にも携われるんだ」というようなことがあっても良いのではという気がしている。
- ・今年5月で開催された、私どもの親団体でもある（一社）日本電設工業協会が主催の「電設工業展 JECA FAIR」という、県内の高校生を見学にあたり、県の方からそのバスの借り上げ費用を補助金として頂戴しており、この場を借りて感謝申し上げる。参加した先生や生徒の皆さんから、非常に有意義であったというアンケート結果を頂いている。今日も持ってきてはいるが、資料としては提出していない。
- ・電業協会は23年間インターンシップの受け入れを行ってきているわけだが、基本的には今年度も兵庫県高等学校教育研究会工業部会、その中の電気系部会、ここを通じて今年度も11校80名程度の受け入れの希望も受けている。一番最初が夏休みの8月で今年中に終える予定であり、現在調整中である。結構学校によって時期がバラバラであるため、事務局の調整が結構大変ではあるが、会員企業の方は逆に年々生徒が減っているような感があり、定員割れしているような状況。またこのインターンシップのことだが、生徒の受け入れ企業の調整ということの中で、ちょっとこのところ、現場サイドというか、会員企業と学校・生徒との調整でちょっと混乱がある。どういうことかと言うと、先程申し上げた、基本的には兵庫県高等学校教育研究会、この電気系部会で纏めていただいていたところ、近年学校側が直接受け入れの打診とかアンケートとか、こういう形で個別に地域の企業との受け入れの申し入れをされているようである。いずれにしても、兵庫県教育委員会の方に受け入れ企業の報告をしていただくので同じ事ではあるが、ただ会社によっては「うちは電業協会、電気系部会で纏めていただいているところで参加しているので」とお断りをされる企業があったり、また逆に個別にされた企業が我々の電業協会の方で把握が出来ていない会員企業があったりしている。先程申し上げた11校80名程度というのも、実際には受け入れているのに、この数字にカウントされていない会員企業もいるのも事実である。

このところはすぐに解決できるとは思っていないが、また後日色々関係部署とも打ち合わせ等の場も持たせていただきたい。どのようにしていったら良いのか、我々もまだそのところは見えてはいない。

- ・色々示唆されている点は調整をしないといけないと思うのと、令和4年度事業実施報告の中にもあったが、説明会の前は建設業のイメージが良いというのは35%ぐらいが81%に増えたとか、それから入職促進で令和5年度が令和元年度から比べるととんとん70%を超えるぐらいの入職になっているということだが、その入職をしている70%の中から、今の話でいけば少し技能者・技術者というところで、実際に自分がやりたい内容であったのかどうかというのが、少し微妙なところがあって辞職されるというケースもあり得るという話であるので、その辺のきっちりとした需要と供給、内容の把握というものをさせていただいた上で、でも難しいことだが、色々な取り組みを整えていただいた上で実際に入っていたら、すぐに辞職する数も減るのではないかなというようにある。これは工業高校だけに限らず、高校生がそのまま就職される場合もあると思う。
- ・兵庫県工業高等学校長会の岩井委員がお話しされたが、兵庫県の工業部会長として工業高校のイベント等を調整されているが、学校もなかなかコロナ禍でスムーズには動けないまま2年間、3年間を過ごしている。部会の中でも、私と岩井会長と連携していることは、色々な事業で、3年前の状況を知っておられた先生方が少しずついなくなり、紙や言語による申し送り事項も、上手く伝わっていないことがあり、伝達手段の整理を進めているところである。
- ・先程、電業協会の小坂委員からお話があったように、インターンシップも、就職を希望する生徒については3年間の中で必ず1回は参加するように、また大学に行く生徒についても、大学の専門機関等でアカデミックインターンシップを実施し、将来の生き方・在り方を考えるような機会を設けるように各校へ伝えている。インターンシップを実施する際、学校は地域の企業や先生方のネットワークで受入れ先を開拓しているケースがある。小坂委員が発言された、「電業協会として兵庫県の工業部会の電気系部会と、その枠については整理しているので、学校の方から直接アプローチせずに、電業協会を通してアプローチしてほしい」というところは、今後引き続き整理をしていく必要がある。これまでの流れを知らずに、近隣の受け入れ先と、1件案件で調整するという流れしかご存じない先生方も増えてきている。企業サイドからも、実はこういうルールがあったが、それを見直す方が良いのか、過去のルールのままが良いのか情報交換を行い、生徒にとって企業にとって、Win-Winの就業体験事業になればよいと思っている。ご意見を頂ければ幸いである。
- ・また、技術者と技能者というライン引きについては、工業高校生を指導する先生方がイメージできるか把握していない。技やものづくり現場の細かいノウハウを、工業高校の中で生徒に伝えていくことができる先生方は、少なくなっている。当課では、「ひょうご匠の技」探求事業として、教員向けの実技に関する研修会を実施している。この事業では、講師の先生に来ていただき、技を教えてもらい、その技を子供達に伝えたり、匠といわれるような技を持った方が生徒を直接指導していただいたりするような機会もある。講師（匠）の先生方から、学校の先生方にエンジニアの見方や考え方、将来の仕事の像というものをご教示いただき、先生方も理解が深まっている。

- ・令和5年7月15日(土)、龍野北高校で、高校生ものづくりコンテストの電気工事部門の大会が開催された。こちらでも電業協会から色々ご支援をいただき、当日は企業の第一線で活躍された、方々にお越しいただいて、講評や作業中の様子についてコメント等を頂く機会を設けている。毎年、企業の方が「安全第一という視点に関連づけて、最後は道具に頼っては駄目だ。」と言われる。「インパクトレンチなどの電動工具を使っても最後は自分の手締めで確認することが大事だ。」ということをお子達に力強く語られる。先生方も、なるほど機械は確かに便利だが、やはり最終的には自分の手の感覚が安全に大きく影響するということに共感される。私もその話を聞いてハッとした。そういうことを指導できる、気がつく人づくりをしていくためには、大会一つを例にとっても、やはり専門家に現場の方へ来ていただき、講評やコメントを頂くことが、生徒にとっても大きな刺激になる。お時間が許すようであれば、高校生の色々な大会にご参加いただき、アドバイスなど頂ければ幸いです。お願い事ばかりで申し訳ないが、引き続きよろしく申し上げます。
- ・NHK 解体キングダムという番組があり、結構評判になっていると聞いている。そういう意味でいっても、今後より建設業に対する色んなやりたいなといった人が増えてくるのではないかと、良い傾向ではないかと個人的には思っている。
- ・当協会も昨年度までは建設業労働者育成支援事業として「はじめての建築設備コース」を開催していたが、年々受講者が減少気味で今年度はそのコースは廃止となった。
- ・それに代わり、兵庫県立ものづくり大学校に相談したところ、業界のPRなどの時間を8月末~9月に設けていただくことになった。ものづくり大学校の先生方からは、技能実習は学校の方である程度できているが、最新版の、現在進行形の話で、実際現場はどうなっているのか、現場にどのような技術が使われているのか、といった話を聞きたいと言われており、今年度当協会の出張講座として実現したいと考えている。
- ・インターンシップにおいても、数年前になかなか参加する企業が少なかったときに、インターンシップマニュアルというものを当協会が作成し、マニュアルどおりにやれば学生を受け入れることができるようになった。それをもとに毎年そんなに多くはないが、昨年度でいえば兵庫工業高校から13名の学生を8社の企業が、尼崎工業高校から7名の学生を4社の企業が受け入れている状況となっている。
- ・先程から出ている技能者・技術者の話だが、技能者というのは建設現場でいえば配管工で、技術者というのは業界でいう施工管理者となるが、当社に入ってくるも学生も、施工管理という言葉が初めて聞いた、就職する段階で初めて聞いたという人がほとんどである。施工管理という名前を聞いたことがほぼなく学生時代を過ごして、いきなり建設業に入ってきて、それは良き場があるのかなと思う。その辺で技能者と技術者、技術者といえば施工管理者になると思うが、その違いをもうちょっと大きくアピールする必要があるのではないかと感じている。
- ・来年4月からの働き方改革に関して、学生のときまでは土日休みで、急に建設業界に入ったら土

曜日に現場は動いている、土曜日に普通に出ないといけないといった違和感を、学生が処理しきれないのではないかと正直思う。特に工程が遅れると一番しわ寄せがくる職種で、最後は残業してでも土日に出てでも対応しないといけない、それが現実である。その辺のことを考えて、発注者側からも工程とか工期などいろいろと考えてもらわないと、なかなか4月に向けて何やっても現実的には難しいのではないかと考えている。

- ・2024年問題とは関係ない話にはなるかもしれないが、兵庫労働局・ハローワークの活動について少しお話しさせていただきたい。

労働局で取り扱っている数字で有効求人倍率があり、令和5年5月直近の数字で1.01倍という数字になっている。5月8日からコロナが5類へ移行したということで、社会活動が通常に戻り、求人も出るかと思っていたが、大幅な求人の増加は今のところ見られていない。実は4月よりも少し下がった状況となっている。有効求人倍率を職種別で見ると、建設業は約4.8倍ということで、かなり求職者が少ない、求人が多い。これは他の職種と比べてもかなり高い数字である。

- ・その中でハローワークとして色々な支援・取り組みをしているが、昨年度の実績としては、まず事業所の面接会ということで、建設会社にハローワークにお越しいただき、求職者の方に面談できる機会を昨年度約50回程度、関係団体にお越しいただき、業界理解のセミナーを昨年度3回、訓練校にご協力いただき、体験会ということで昨年9回実施している。そういったところで機会の確保とか、理解促進、ミスマッチの解消ということに力を入れている。

- ・今年度においても、兵庫県建設業振興基金と連携して、建設業ウェルカムの周知とか、建設業の雇用情勢の理解促進を目的とした、基金職員によるハローワーク職員への研修、三田研修センターにもお世話になり、職員の見学会ということで、支援者・職員の理解の向上・スキルアップというところにも今年度は力を入れている。

引き続き、関係各所と連携を取り支援したいと思っているため、よろしくお願ひしたい。

- ・職業訓練校の関係であるとか技能の研修の関係というような業務を行なっているが、ものづくり大学校の関係、但馬の但馬技術大学校、神戸の神戸高等技術専門学校、こういったところで建築系のコースを中心に職業訓練のコースを設けている。実は職業訓練の入校者は、求人が多いということもあると思うが、非常に入校率が下がっており、入校される方がここ2~3年減少傾向にあるが、建築系・住宅系のコースに関しては、そういった中でも比較的定員に近い形の入校をしていただいている。色んな業界の関係の方にご協力いただきながら、先程もお話があったが、コースの中で1年間ないし2年間訓練を進めている。その中で、インターンシップも一定訓練の中に入っており、就職してからのミスマッチを防ぐというような取り組みもしており、業界の関係の方々には引き続きご協力をお願いしたい。

- ・その他に、建設業というよりものづくりという形で広い概念になるが、学生の方々に興味を持っていただくということで体験学習というものもしており、従来から小学生・中学生を対象にものづくり、例えばフラワースタンドやミニ屏風を作るといったようなことをやるものづくりの体験学習をしていたが、今年から高校生にも広げていこうと考えている。中学生で止まってしまうと興味は持てるが職業という形の繋がりが少し弱いため、高校でもそういった体験学習を設けるこ

とで入職ということも少し意識してもらおう、それはものづくり分野という広い分野だが、興味を持ってもらうということで、今年度から高校生も体験学習を広げていこうかという取り組みを進める予定である。

- ・少し雑談というか、業務に密接に関係ない話にはなるが、技能団体とも非常に従来から接する機会が多く、技能団体の長の方とも話をする機会もあり、先日も組合の総会に出たり、組合の次長と話をし、どこの団体かは言わないが、やはり職能団体は直接業を請負うことができない、要は下請けなり孫請けなりといった業界の方ももちろんいらっしゃるため、「もうけ」とか「もうかる」ということをすごく意識した発言が会の中でもやはり目立つ。もうけるためには適正な価格で業務を卸していただくというようなところを、非常に意識した業界・技能団体としての発言が多いということは、今年度からこの職にあるが、非常に聞いていて意識をされているなど感じている。というのも、業界団体としても非常に人材が不足しており、後継者なり、業界としての規模感もどんどん縮小していつている。もちろん人口減少ないし人材不足という中ではどこの業界もそうだと思うが、非常に危機感を感じており、やはり一定もうけることによって業に興味を持っていただいて、入職して定着していただく。こういったことを非常に技能団体が意識されている、また危機感を持っておられるということを知っているため、この場に沿うかどうかは分からないが、私が現状知っていることをお話させていただいた。
- ・資料1の5ページに記載があるが、現場見学会79回、出前講座30回を実施した。やはり先程から話が出ている通り、なかなか授業では建設業というものがどういうものか、分かりにくいところを、こうした現場見学会などで補完したい、当然魅力発信して入職に繋げる、ということを実施している。
- ・出前講座の事例だが、小学校などで「社会基盤のこんな取り組みしている」等の出前講座を結構やっている。例えば、直近でいけば、昨年度丹波の測量設計業協会さんと一緒になって、篠山産業高校の2年生を対象に測量の体験授業を行った。最新のDX、3次元測量であるとか、ドローンであるとかの授業をしたが、やはり学校では2次元が今でも主流ということで、最先端の技術に触れることができ良かったのではないかと考えている。
- ・現場見学会も各土木事務所でやっているが、県庁での取り組みとして、兵庫工業高校と篠山産業高校の2年生を対象に実施した。兵庫工業高校は、三田西インター線のバイパスの工事現場を見学した後、大阪で開催されている建設技術展の方にバスで移動し、そこで学生のためのキャリア支援ということで、ゼネコン・コンサルの方と直接意見交換する機会があり、色々話をし将来の進路を考えるきっかけになったという意見があった。篠山産業高校の生徒は、地元のバイパス工事をやっている現場であるとか、西宮の津門川貯留管の大規模な現場を見学していただいた。こうした現場を見学して、授業でやっている普段の勉強がこういうところで活かしているんだという、そういう感覚になっていただいたと思う。高校生が普段街を歩いている時に、歩道の工事とかを見かけると思うが、それを「どんな工事やっているのだろう」とちょっと意識をして、各作業員、技能者の方、そして立ってなにか色々測っている人、これは技術者なんだなど、そういうわざわざ現場に行かなくても、普段の街でそういう現場はあると思うため、そのあたりを学校の方で「ちょっとそんなことを意識して、街に出たら現場を見てみなさい」と言っていたら、

少し見方も変わっていくのではないかと考えている。

- ・先程から話に出ている 2024 年問題だが、発注者としては対策として先程もあったが、高校生が当たり前になっている週休 2 日、それを今、週休 2 日指定工事として発注することを原則としているが、それを推し進めることと併せて、やはり適正な工期、準備期間から雨の降る不可動日数、但馬であれば雪も降るし、関連工事があればそれによって手待ちが出るとか、当然後片付けもある。そういう工事自体にかかる日数だけではなく、準備から不可動日数等も含めた適正な工期の設定と、あと閑散期、4 月から 9 月の工事があまり出ない閑散期も含めて 1 年通して平準化して発注するということは、我々も建設業協会の方々などからいつもご指摘を受けているところであるため、発注者としてきっちり出来ることはやっていきたい。
- ・先程から 2024 年問題というものが話に出ているが、昨年ぐらいから労政福祉課でも気にしてはいたが、結論から言うと静観している状況である。基本的にもともと運送業ですごく注目をされていたため、建設業の方まで考えてはいなかったというのが正直なところではあるが、そもそも国が言っていることであるので、それに対して県がどうこうというのはそもそも言えるのかということと、もう 1 つは働き方改革の一環で雇用環境を改善していきましょうという立てつけの話であるため、じゃあそれが例えば仮にうちの会社は出来ませんという企業が現れた時に、じゃあそれをどうにかしましょうという話になるのかといえば、多分それはならないと思う。ただ、国としてはいわゆるこういう風な部分を働き方改革でこうしましょうと打ち出しはすごく綺麗だが、結局そこから今までの話に出ていたように波及して、例えば運送業で行くとドライバーはどうなるのか、運送会社はどうなるのか、荷主はどうなるのか、最終的に消費者はどうするのか、という風なところでまで波及をしていくような問題であるため、なかなか大きい話になるのだろうと思っている。ただ、基本的には国の方針がそういう形であるため、今のところ県としてそこにどう突っ込み等をしていこうということには今のところなっていないというのが現状である。多分、今のところ特段その国と連携して何かしていくという話にはなっていないため、恐らくそのまましばらく推移をしていくのではないかと考えている。
- ・せっかくの機会であるため労政福祉課の事業も少しお話しさせていただきたい。労政福祉課は、基本的には新規学卒者とか若年者の就職支援、それから県内企業の人材確保支援というものを担当している。目立った事業でいくと、今年は特に知事が色々なところで言っているかと思うが、奨学金返済支援事業というものを拡充している。今までは企業が従業員の奨学金返済に対して、これだけ支援してあげるということで、例えば手当を支給するという風な制度を設けている場合は、その手当の半分を県が補助するというのが従来の姿だったが、一定要件を満たせば、平たく言えばある程度企業として従業員の支援をしていただいているということがクリアになれば、残っているご本人の負担分についても一定県が補助しましょう、という風に生まれ変わったのが今年度という形になっている。上手く要件を満たせば、ご本人の負担がゼロ、企業負担が 3 分の 1、県の負担が 3 分の 2 で本人負担がゼロの状態、それが上手くいけば最大 5 年間続くという制度となった。つい先日、広島工業大学に行って U ターン の就職相談会があり、たまたま会った子が土木の学生だったのだが、土木以外にももちろん機械工学の学生もいたが、奨学金を借りているか聞くと、みんな手を挙げていた。やはり私立の理工系に進んでいる子は学費が結構要るため、奨学金を借りている率は非常に高い。そのため、もしそういった学生を新規で雇い入れた場合、逆

に言うと卒業して就職して半年後から奨学金の返済がスタートする。県の学生で平均で 200～300 万円ぐらいは借りているという数字も出ており、200～300 万円の借金を背負っている状態でスタートを切るといふかなりビハインドになるため、もしそういったような方がいらっしゃれば、奨学金返済支援事業のご活用もご検討いただけたらと思っている。

- ・ 令和5年7月13日（木）から、ひょうご経済・雇用戦略推進会議が開催されている。県下の有識者の方、あるいは企業の代表者の方が集まって、経済とか雇用について話をしましょうというものスタートを切っているが、恐らくこのご時世であるため、人材不足の話はマストで出てくると思う。その中で、これも多分ではあるが高校生の就職についてどんどん減っているのどうするのかという話と、もう1つは若手人材が減っているのどこをどうするのかというところに加えて、外国人の留学生をどうするのか、というふうな話が出ると思われる。ちょっとまだそれが最終的に整理ができていないため、今後どういう風に政策・施策に反映されていくのかは分からないが、多分今申し上げたようなことが柱になっていって、恐らく来年の施策になるのかなという気がしている。今ちょうどこの場で高校生の話も色々出ていたが、ひょっとしたら連携をお願いするかもしれないため、その時は是非お願いしたい。

#### **【閉会挨拶】**

#### **●土木部次長（会長）**